

2010年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

《全体プログラム》

1. 開催日時場所

開催日	場所	開催時間：午後1時30分～4時50分	参加費：無料
22年10月12日(火)	大阪	大阪科学技術センターホール(8階)	大阪市西区靱本町1-8-4 Tel 06-6443-5324
22年10月18日(月)	東京	経団連会館 国際会議場(2階)	東京都千代田区大手町1-3-2 Tel 03-6741-0222
22年10月25日(月)	名古屋	昭和ビルホール(9階)	名古屋市中区栄4-3-26 Tel052-261-7751

2. 会場プログラム

・各社パノラマ展示 各会場ホールラウンジ *普通鋼電炉工業会 TEL.03-5640-1122 FAX 03-5640-1125 <普通鋼電炉ホームページ <http://www.fuderkou.jp>>

13:30-13:40

開会挨拶

13:40-14:10 発表30分— 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況 — 電炉業の紹介ビデオ「DENRO」 —

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

鉄のリサイクルから生まれる電炉鋼材は、鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板等の製品に加工され、建材分野を中心に広く使用されている。電気アークによる超高温溶解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に再生される。本報ではそのプロセスの概要と特徴を紹介する。最新の製造現場の様子を紹介するビデオを作成し昨年上映したが、今回も引き続き上映するので工場見学するつもりで、電炉操業や品質管理の取り組みについてより理解を深めて頂きたい。

14:10-15:10 発表60分— 質問時間を含む

講演

電気製鋼法の誕生と発展(1900～1920年)

元 大同特殊鋼(株) 矢島 忠正 殿

1900年電気炉による製鋼法はスウェーデンの誘導炉に始まる。その目的は当時英国シェフィールドが独占したルツボ製鋼法に匹敵するプロセスの開発にあった。それとほぼ同時期にフランスでアーク炉による屑鉄の溶解から酸化、還元精錬を経るダブルスラグ法が確立され、スウェーデン鋼並みの低磷、低硫鋼の製造を可能にした。しかし大半のアーク炉は、特に電極位置制御機器の不備もあって主にダブルスラグ法を利用する平炉、転炉の溶鋼の脱磷、脱硫、脱酸用の炉外精錬炉であった。

第一次大戦中各国で大艦、巨砲の生産に伴い大量に発生した軽量小型屑(グライ粉)はその再利用の為に無酸化溶解が可能な経済的プロセスとして、周辺機器の改善と相俟ってアーク炉法の活用を促した。大戦中欧米からの鉄鋼輸入を断たれた日本でアーク炉法の導入されたのはこの時期であった。

15:10-15:20 休憩

15:20-16:05 発表45分— 質問時間を含む

講演

土木分野での高強度鋼材の活用に向けた取組みと課題

(株)フジタ 技術センター 土木研究部長 笹谷 輝勝 殿

公共事業の多くは土木工事であり、多くの道路、鉄道、空港、港湾、河川構造物、上下水道施設などの鉄筋コンクリート構造物が造られている。阪神大震災以降、過密配筋となったこれら構造物に対応して、“コスト縮減・合理化施工”の声と相まって使用される鉄筋も太径かつ高強度になりつつある。このような鉄筋コンクリート構造物の現状について、高強度鉄筋の活用に向けた取組みを紹介するとともに、更なる活用に向けた高強度鉄筋の課題について述べる。

16:05-16:50 発表45分— 質問時間を含む

講演

国内外の鉄スクラップ需給と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

経済は2010年1-3月を底に緩やかな回復過程にあるものの、回復の実感薄く不安材料が払拭しきれない。鉄スクラップの発生も低迷が続いている。こうした中、国内の需要は高炉メーカーの購入継続や電炉生産の緩やかながらの回復、海外では韓国設備増強による要輸入ニーズ増などから国内外とも強い。需給のアンバランスから脱却しきれず、価格は上がる方向が免れないだろう。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後を展望する。

2010年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

大阪会場プログラム

開催日	場所	開催時間	参加費
22年10月12日(火)	大阪 大阪科学技術センターホール(8階)	午後1時30分~4時50分	無料

・各社パノラマ展示 各会場ホールラウンジ *普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125 <普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>>

13:30-13:40

開会挨拶

岸和田製鋼(株) 代表取締役社長 鞠子 重孝

13:40-14:10 発表30分— 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況 —電炉業の紹介ビデオ「DENRO」—

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

鉄のリサイクルから生まれる電炉鋼材は、鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板等の製品に加工され、建材分野を中心に広く使用されている。電気アークによる超高温熔解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に再生される。本報ではそのプロセスの概要と特徴を紹介する。最新の製造現場の様子を紹介するビデオを作成し昨年上映したが、今回も引き続き上映するので工場見学するつもりで、電炉操業や品質管理の取り組みについてより理解を深めて頂きたい。

14:10-15:10 発表60分— 質問時間を含む

講演

電気製鋼法の誕生と発展(1900~1920年)

元 大同特殊鋼(株) 矢島 忠正 殿

1900年電気炉による製鋼法はスウェーデンの誘導炉に始まる。その目的は当時英国シェフィールドが独占したルツボ製鋼法に匹敵するプロセスの開発にあった。それとほぼ同時期にフランスでアーク炉による屑鉄の熔解から酸化、還元精錬を経るダブルスラッグ法が確立され、スウェーデン鋼並みの低燐、低硫鋼の製造を可能にした。しかし大半のアーク炉は、特に電極位置制御機器の不備もあって主にダブルスラッグ法を利用する平炉、転炉の溶鋼の脱磷、脱硫、脱酸用の炉外精錬炉であった。

第一次大戦中各国で大艦、巨砲の生産に伴い大量に発生した軽量小型屑(グライ粉)はその再利用の為に無酸化熔解が可能な経済的プロセスとして、周辺機器の改善と相俟ってアーク炉法の活用を促した。大戦中欧米からの鉄鋼輸入を断たれた日本でアーク炉法の導入されたのはこの時期であった。

15:10-15:20 休憩

15:20-16:05 発表45分— 質問時間を含む

講演

土木分野での高強度鋼材の活用に向けた取組みと課題

(株)フジタ 技術センター 土木研究部長 笹谷 輝勝 殿

公共事業の多くは土木工事であり、多くの道路、鉄道、空港、港湾、河川構造物、上下水道施設などの鉄筋コンクリート構造物が造られている。阪神大震災以降、過密配筋となったこれら構造物に対応して、“コスト削減・合理化施工”の声と相まって使用される鉄筋も太径かつ高強度になりつつある。このような鉄筋コンクリート構造物の現状について、高強度鉄筋の活用に向けた取組みを紹介するとともに、更なる活用に向けた高強度鉄筋の課題について述べる。

16:05-16:50 発表45分— 質問時間を含む

講演

国内外の鉄スクラップ需給と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

経済は2010年1-3月を底に緩やかな回復過程にあるものの、回復の実感薄く不安材料が払拭しきれない。鉄スクラップの発生も低迷が続いている。こうした中、国内の需要は高炉メーカーの購入継続や電炉生産の緩やかながらの回復、海外では韓国設備増強による要輸入ニーズ増などから国内外とも強い。需給のアンバランスから脱却しきれず、価格は上がる方向が免れないだろう。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後の展望する。

2010年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

東京会場 プログラム

開催日	場所	開催時間	参加費
22年10月18日(月)	東京 経団連会館 国際会議場(2階)	午後1時30分～4時50分	無料

・各社パノラマ展示 各会場ホールラウンジ

*普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

<普通鋼電炉工業会 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>>

13:30-13:40

開会挨拶

東京鐵鋼(株) 取締役常務執行役員 鶴見 長晴

13:40-14:10 発表30分— 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況 —電炉業の紹介ビデオ「DENRO」—

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

鉄のリサイクルから生まれる電炉鋼材は、鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板等の製品に加工され、建材分野を中心に広く使用されている。電気アークによる超高温溶解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に再生される。本報ではそのプロセスの概要と特徴を紹介する。最新の製造現場の様子を紹介するビデオを作成し昨年上映したが、今回も引き続き上映するので工場見学するつもりで、電炉操業や品質管理の取り組みについてより理解を深めて頂きたい。

14:10-15:10 発表60分— 質問時間を含む

講演

電気製鋼法の誕生と発展(1900～1920年)

元 大同特殊鋼(株) 矢島 忠正 殿

1900年電気炉による製鋼法はスウェーデンの誘導炉に始まる。その目的は当時英国シェフィールドが独占したルツボ製鋼法に匹敵するプロセスの開発にあった。それとほぼ同時期にフランスでアーク炉による屑鉄の溶解から酸化、還元精錬を経るダブルスラッグ法が確立され、スウェーデン鋼並みの低炭、低硫鋼の製造を可能にした。しかし大半のアーク炉は、特に電極位置制御機器の不備もあって主にダブルスラッグ法を利用する平炉、転炉の溶鋼の脱磷、脱硫、脱酸用の炉外精錬炉であった。

第一次大戦中各国で大釜、巨砲の生産に伴い大量に発生した軽量小型屑(ダライ粉)はその再利用の為に無酸化溶解が可能な経済的プロセスとして、周辺機器の改善と相俟ってアーク炉法の活用を促した。大戦中欧米からの鉄鋼輸入を断られた日本でアーク炉法の導入されたのはこの時期であった。

15:10-15:20 休憩

15:20-16:05 発表45分— 質問時間を含む

講演

土木分野での高強度鋼材の活用に向けた取組みと課題

(株)フジタ 技術センター 土木研究部長 笹谷 輝勝 殿

公共事業の多くは土木工事であり、多くの道路、鉄道、空港、港湾、河川構造物、上下水道施設などの鉄筋コンクリート構造物が造られている。阪神大震災以降、過密配筋となったこれら構造物に対応して、“コスト削減・合理化施工”の声と相まって使用される鉄筋も太径かつ高強度になりつつある。このような鉄筋コンクリート構造物の現状について、高強度鉄筋の活用に向けた取組みを紹介するとともに、更なる活用に向けた高強度鉄筋の課題について述べる。

16:05-16:50 発表45分— 質問時間を含む

講演

国内外の鉄スクラップ需給と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

経済は2010年1-3月を底に緩やかな回復過程にあるものの、回復の実感薄く不安材料が払拭しきれない。鉄スクラップの発生も低迷が続いている。こうした中、国内の需要は高炉メーカーの購入継続や電炉生産の緩やかながらの回復、海外では韓国の設備増強による要輸入ニーズ増などから国内外とも強い。需給のアンバランスから脱却しきれず、価格は上がる方向が免れないだろう。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後を展望する。

2010年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

名古屋会場プログラム

開催日	場所	開催時間	参加費
22年10月25日(月)	名古屋 昭和ビルホール(9階)	午後1時30分~4時50分	無料

・各社パブリック展示 各会場ホールラウンジ *普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125 <普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>>

13:30-13:40

開会挨拶

トピー工業(株) 専務取締役 池田 仁

13:40-14:10 発表30分— 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況 —電炉業の紹介ビデオ「DENRO」—

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

鉄のリサイクルから生まれる電炉鋼材は、鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板等の製品に加工され、建材分野を中心に広く使用されている。電気アークによる超高温溶解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に再生される。本報ではそのプロセスの概要と特徴を紹介する。最新の製造現場の様子を紹介するビデオを作成し昨年上映したが、今回も引き続き上映するので工場見学するつもりで、電炉操業や品質管理の取り組みについてより理解を深めて頂きたい。

14:10-15:10 発表60分— 質問時間を含む

講演

電気製鋼法の誕生と発展(1900~1920年)

元 大同特殊鋼(株) 矢島 忠正 殿

1900年電気炉による製鋼法はスウェーデンの誘導炉に始まる。その目的は当時英国シェフィールドが独占したルツボ製鋼法に匹敵するプロセスの開発にあった。それとほぼ同時期にフランスでアーク炉による屑鉄の溶解から酸化、還元精錬を経るダブルスラグ法が確立され、スウェーデン鋼並みの低燐、低硫鋼の製造を可能にした。しかし大半のアーク炉は、特に電極位置制御機器の不備もあって主にダブルスラグ法を利用する平炉、転炉の溶鋼の脱燐、脱硫、脱酸用の炉外精錬炉であった。

第一次大戦中各国で大艦、巨砲の生産に伴い大量に発生した軽量小型屑(グライ粉)はその再利用の為に無酸化溶解が可能な経済的プロセスとして、周辺機器の改善と相俟ってアーク炉法の活用を促した。大戦中欧米からの鉄鋼輸入を断たれた日本でアーク炉法の導入されたのはこの時期であった。

15:10-15:20 休憩

15:20-16:05 発表45分— 質問時間を含む

講演

土木分野での高強度鋼材の活用に向けた取組みと課題

(株)フジタ 技術センター 土木研究部長 笹谷 輝勝 殿

公共事業の多くは土木工事であり、多くの道路、鉄道、空港、港湾、河川構造物、上下水道施設などの鉄筋コンクリート構造物が造られている。阪神大震災以降、過密配筋となったこれら構造物に対応して、“コスト縮減・合理化施工”の声と相まって使用される鉄筋も太径かつ高強度になりつつある。このような鉄筋コンクリート構造物の現状について、高強度鉄筋の活用に向けた取組みを紹介するとともに、更なる活用に向けた高強度鉄筋の課題について述べる。

16:05-16:50 発表45分— 質問時間を含む

講演

国内外の鉄スクラップ需給と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

経済は2010年1-3月を底に緩やかな回復過程にあるものの、回復の実感薄く不安材料が払拭しきれない。鉄スクラップの発生も低迷が続いている。こうした中、国内の需要は高炉メーカーの購入継続や電炉生産の緩やかながらの回復、海外では韓国設備増強による要輸入ニーズ増などから国内外とも強い。需給のアンバランスから脱却しきれず、価格は上がる方向が免れないだろう。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後の展望する。

2010年 電炉鋼材フォーラム 申し込み用紙

申し込み会場にレ点を入れてください。お申込は会場ごとをお願いします。

- 東京会場 22年10月18日(月)開催 於:経団連会館 2F国際会議場 [申込期限:10月 8日(金)]
- 名古屋会場 22年10月25日(月)開催 於:昭和ビル 9Fホール [申込期限:10月15日(金)]
- 大阪会場 22年10月12日(火)開催 於:大阪科学技術センター 8Fホール[申込期限:10月 1日(金)]

<申込者> ご出席者をお知らせください。よろしくお願ひ申し上げます。

会社名等		
所属役職		
氏名(ふりがな)	()	どちらかに○を付けてください。 申込者は、出席・欠席する。
住所	〒	
連絡先	TEL	FAX

出席者の業種 ○印をお付けください。

- 1. 官公庁、自治体、教育、団体関係
- 2. 建設会社
- 3. 設計会社
- 4. 橋梁メーカー
- 5. 鉄筋加工・圧接関係
- 6. 鉄骨加工関係
- 7. 機械・造船・自動車
- 8. 商社、流通、特約店等
- 9. その他()

普通鋼電炉工業会からは参加証を事前にお送りしませんので、申し込まれた方は当日会場受付にお出でください。

出席者氏名 出席者確認のための名簿を作成します。 *用紙は必要に応じ、コピーして下さい。

会社名	所属役職	氏名 (ふりがな)	Tel
		()	
		()	
		()	
		()	